

第三卷

「日本のうたごえ」祭典.....

全国の地域・職場合唱団などの代表が集う大音楽会。地域別、国鉄・専売などの産業別、主婦・労働者などの種別に合唱が展開、最後に全体合唱が行われた。

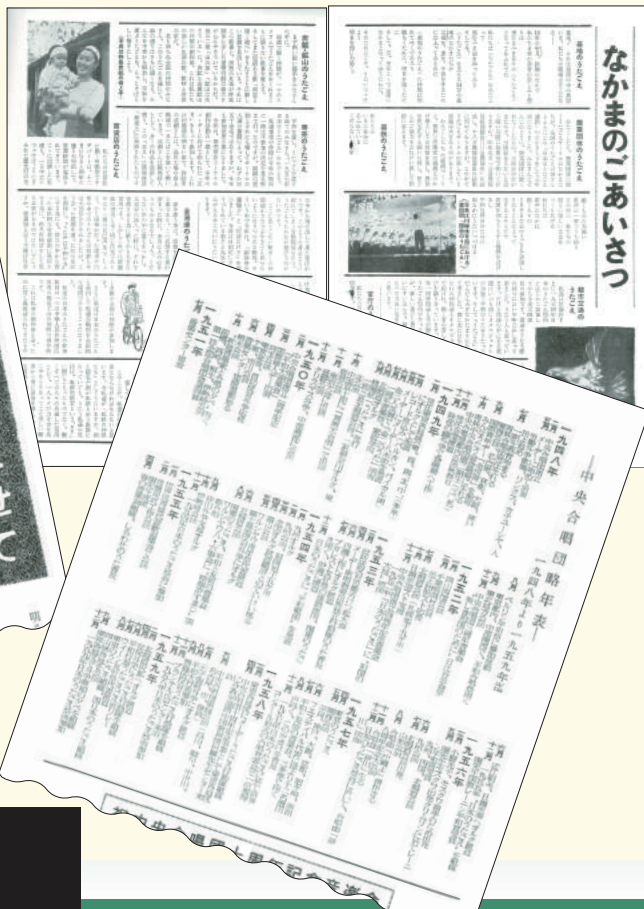
- (1) 地方参加団体のむしろ地方性を重視、土地柄に由来する個性ある出し物を披露
- (2) 出し物の優劣を競わず、持味を出すことが眼目、それらの交流を通してさらに広い参加を促す、などの特徴があった。

イベントパンフレット編

- 『GRAND CONCERT（音楽センター完成・中央合唱団3周年記念）』（刊記無、1951年12月19日）
- 『平和のうたごえ（中央合唱団東京公演）』（主催・音楽センター、1954年7月12日）
- 『中央合唱団（創立8周年記念音楽会）』（刊記無、1956年9月6日）
- 『創立10周年記念（中央合唱団音楽（第1回））』（1960年8月27日）
- 『日本のうたごえ1952年（中央合唱団四周年記念公演）』（中央合唱団、1952年12月21日）
- 『日本のうたごえ1953年（全国合唱団参加・中央合唱団創立5周年記念）』（刊記無、1953年11月29日）
- 『日本のうたごえ1954年（中央合唱団6周年記念）』（全国合唱団会議／音楽センター、1954年11月27日）
- 『日本のうたごえ1955年』（主催・日本のうたごえ祭典準備会音楽センター、1955年11月27日）
- 『日本のうたごえ祭典1956』（主催・日本のうたごえ祭典準備会、1956年12月1日）
- 『日本のうたごえ祭典1957』（主催・日本のうたごえ実行委員会／協力・全日本学生自治会総連合ほか、1957年12月13日）
- 『日本のうたごえ1958』（主催・日本のうたごえ実行委員会、1958年12月6日）
- 『日本のうたごえ祭典1959』（主催・日本のうたごえ実行委員会、1959年12月5日）
- 『日本のうたごえ祭典1960』（主催・日本のうたごえ実行委員会、〔1960年12月9日〕）

*特別附録資料

- 『東京のうたごえ』（主催：全農林東京都青年婦人協議会／音楽センター、1953年3月20日）
- 『京浜のうたごえ』（南部地区音楽実行委員会、1953年7月18日）



第四卷

『青年歌集』はロシア民謡などの流行もあって、1953年には「隠れたベストセラー」の異名を週刊誌上でとった。運動に参加していた人々がどのような曲を好み、どう日常で運動を展開していたのかを明らかにするツールとなる。

歌集編

- 『青年歌集』（民主青年合同委員会出版部、1949年4月10日）
- 『続青年歌集』（日本民主青年団出版部、1949年11月15日）
- 『新青年歌集—メーデー特集号』（反植民地斗争実行委員会、1950年4月5日）
- 『ポケット青年歌集（うたごえ）』1~6号（大阪青年音楽協会、〔1952年〕）



第五卷



運動に関与した関鑑子の発案により「みんなうたう会」が創設。その後、全国に組織される職場合唱団やうたごえサークルの基盤となった。大阪・名古屋などでも演奏会を開催。

ひとりひとりが何らかの意味で「作る」ことに参加するというのが、より運動を活性化した。

創作関係リーフレット・冊子編

- 『みんな歌う会』19~48号（20、21、24、27~29、33、36~43、45、47号欠）
（音楽センター、1952年10月18日~1953年11月7日）
 - 『うたごえ創作集』（音楽センター、〔1955年〕）
 - 『うたごえ創作集—1955年第5回世界青年学生平和友好祭』（音楽センター、1955年6月5日）
 - 『うたごえ創作集—第3回作曲講座修了記念』（音楽センター、1957年2月）
 - 『音楽センター第2回発表会—うたごえ歌曲集』（音楽センター創作部、1956年3月）
 - 『創作曲集』（日本のうたごえ企画委員会創作部、〔1956年〕）
- ＊特別附録資料
- 『歌え若者』第4号（大阪青年音楽センター落成記念号）（歌え若者編集委員会、1952年12月）
 - 「うたう詩を作るために—うたごえよこれ」（音楽センター—うたごえ新書、〔9月4日〕）
 - 絵葉書8種（日本民主青年団中央合唱団）

「うたごえ」運動では専門の作曲家だけではなく、一般の労働者も詩曲の創作を行った。時と場所に応じて、歌を作りそれをともに歌うことが運動としての結束を強めた。

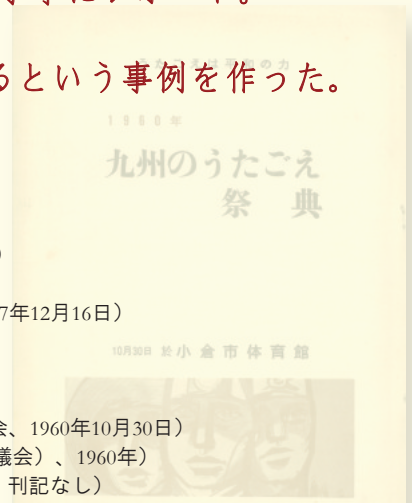


第六卷

各職場・各地域のうたごえサークルの実態や課題などが丁寧にレポート。「九州のうたごえ」は内灘基地闘争と並んで、「うたごえ」運動が地方の民主的運動に積極的に介入するという事例を作った。

地域社会他関係史資料編

- 『日本のうたごえ報告』（刊記無、1954年12月9日）
 - 『虹』9号（1954年日本のうたごえ報告特集号）（黒沢正之／虹の会コーラス、1954年12月27日）
 - 『全国からの通信（その4）』（音楽センター、1956年1月15日）
 - 『1957年度全国学生のうたごえ総会—討議資料』（関東／関西学生のうたごえ協議会、1957年12月16日）
 - 『日本のうたごえに参加して』（刊記無、〔1959年〕）
 - 『日本のうたごえ—スケッチ』（刊記無、1959年）
 - 『九州のうたごえ祭典』（九州うたごえ実行委員会、1960年10月30日）
 - 『三池の火—第2回—西日本のうたごえ参加報告』（第2回西日本のうたごえ関西実行委員会、1960年10月30日）
 - 『日本のうたごえ運動研究集会テキスト』（日本のうたごえ実行委員会（南部うたごえ協議会）、1960年）
 - 『「素晴らしかった祭典」九州のうたごえに参加して』（鹿児島県うたごえ準備委員会、刊記なし）
 - 『三池のうたごえ—安保紛争／国会解散／三池共斗』（日本のうたごえ実行委員会三池共斗行動隊／九州のうたごえ協議会、刊記無）
- * 総目次




「うたごえ」運動資料集

全六巻 [編集復刻版]

「うたごえ」運動の持っていた役割は、社会運動をこえて音楽史の上でもユニークかつ意義深いもので、戦後大衆文化の枠内でも興味深い位置を占める。

推 薦—渡辺 裕 (東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授)
高岡 裕之 (関西学院大学文学部文化歴史学科教授)
造 本—A4/B5/A5/B6判・上製函 総約2,150頁
揃 価—132,000円 (各巻22,000円) (配本毎分売可)
原本提供—音楽センターほか

『うたごえ』→『音楽運動』の初期定期刊行物、圧倒的な盛り上がりを見せた1950年代半ば『うたごえ新聞』、演奏会パンフレット、歌集・リーフレット、地域で発行された冊子、絵葉書といった「微細」だが貴重な関係史資料をも網羅・収録。

【第一回配本】2016年12月 66,000円 ISBN978-4-907236-63-2

一巻 雑誌・新聞編① A5判・376頁

* 解題・推薦文

二巻 雑誌・新聞編② A4判・384頁

* 特別附録資料

三巻 イベントパンフレット編 B5判・320頁

【第二回配本】2017年6月 66,000円 ISBN978-4-907236-64-9

四巻 歌集編 B6判・480頁

五巻 創作関係リーフレット・冊子編 A5判・272頁

六巻 地域社会他関係史資料編 B5判・約320頁

* 総目次

編・解題者紹介

道場 親信 (みちば ちかのぶ)

1967年生。和光大学現代人間学部教授。2016年9月14日逝去。

河西 秀哉 (かわにし ひでや)

1977年生。神戸女学院大学文学部総合文化学科准教授。

道場「解題」は、運動に関わったサークルの視点から資料を読み解き、同様に全国の多様なサークルの視点から本書を読みとく作業にひらかれつながる。河西「解題」では、運動のスタートから1960年までの運動の状況について概観し、今後の思想・文化研究の礎となる。



Kanazawa Bumpokaku

金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30

Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より
価格は税別 047/11/4000